

2019 年度

金城学院大学自己点検・評価報告書

金城学院大学 内部質保証推進会議

目次

金城学院大学自己点検・評価報告書について	・・・ p.2
2019年度 活動報告	
学長室	・・・ p.3
大学FD委員会	・・・ p.4
大学教務委員会	・・・ p.5
入学センター委員会	・・・ p.6
大学学生生活委員会	・・・ p.7
図書館委員会	・・・ p.8
キリスト教センター委員会	・・・ p.9
国際交流センター委員会	・・・ p.10
マルチメディアセンター委員会	・・・ p.11
言語センター委員会	・・・ p.12
文学部自己評価委員会	・・・ p.13
生活環境学部自己評価委員会	・・・ p.14
国際情報学部自己評価委員会	・・・ p.15
人間科学部自己評価委員会	・・・ p.16
薬学部自己評価委員会	・・・ p.17
文学研究科自己評価委員会	・・・ p.18
人間生活学研究科自己評価委員会	・・・ p.19
金城学院中期計画（2015年度～2020年度）	
大学関連項目一覧表	・・・ p.20

金城学院大学自己点検・評価報告書について

金城学院大学

学長 奥村 隆平

金城学院大学では、教育研究の質の向上と社会的責務を果たしていくために毎年自己点検・評価を実施しています。こうした取り組みをより実質的なものとするために、2019年度に、これまでこの自己点検・評価を中心的に担ってきた金城学院大学自己評価委員会を改組し、金城学院大学内部質保証推進会議を設置しました。この「自己点検・評価報告書」は、本学における各委員会や各部署における活動について行った自己点検・評価活動をまとめたものであり、本年度は新しい体制での第1回目の報告書となります。

本学では、自己点検・評価を通じた以下のようなPDCAサイクルによって、質保証を行っています。まず、毎年3月に各委員会等で策定された次年度「活動目標」(Plan)について、内部質保証推進会議が審議し、改善・向上等の指示を経て、これを承認します。この活動目標に基づき各委員会等で1年間活動を行い(Do)、その結果を2月に「活動報告」としてまとめます。その後、内部質保証推進会議小委員会による評価・検証と、内部質保証推進会議での審議を経て(Check)、次年度の活動につなげていきます(Action)。

2019年度活動目標の策定にあたっては、主に金城学院中期計画(2015年度～2020年度)の大学関連項目にもとづくものとし、目標の末尾に項目番号を記載し関連性を明示してあります。これは、本学における活動が、学院の基本方針に基づくものであることを明示するものでもあります。

本学では、内部質保証推進会議を中心にPDCAサイクルを十分に機能させることを通して、今後とも教育に関する質保証の確立を目指して参ります。

2019年度 活 動 報 告

所 属	学長室	職 名	学長	氏 名	奥村隆平
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) 教職員への建学の精神の周知 (I-1-①)</p> <p>(2) 地域社会との共生 (IV-1-①～⑤)</p> <p>(3) 新研究科・新学部設置の準備</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) 教職員への建学の精神の周知 教職員に対しては大学教員キリスト教セミナー、事務職員に対しては事務関係者夏期修養会を開催し、継続的な建学の精神の周知を図ることが出来た。</p> <p>(2) 地域社会との共生 新たな試みとして女性リーダーシップを主なテーマとした「女性みらい活躍フォーラム」を本学で開催したほか、「実践！初めてのマインドフルネス」「最先端のキャリア心理学を学ぶ」「人生100年時代のライフデザイン」「講師入門・実践講座」「こころとからだを健やかにする伝統的ヨーガの理論と実践」等の講座をサテライトやKIDSセンターにおいて開講した。</p> <p>(3) 新研究科・新学部設置の準備 看護学研究科・看護学部設置計画の基本となる教育研究上の目的、3つのポリシー、カリキュラムを策定するとともに、教員候補者や学外実習の受入施設を確保し、認可申請に向けた準備をおおむね完了することが出来た。また、同時に進めている薬学研究科に関する準備についても、ほぼ完了することが出来た。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	大学FD委員会	職 名	委員長	氏 名	奥村隆平
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) アセスメント・ポリシーに基づく体制整備にむけたFD交流集会の実施(Ⅱ-1(3)-②)</p> <p>(2) 第3期認証評価に対応する体制整備にむけたFD・SD交流集会の実施(Ⅱ-1(3)-②)</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) アセスメント・ポリシーに基づく体制整備にむけたFD交流集会の実施</p> <p>2019年10月30日に開催された合同教授会において、アセスメント・ポリシーをふまえた評価項目に関する説明会を実施した。これにより、アセスメント・ポリシーについての全学的な周知を図ることができた。</p> <p>(2) 第3期認証評価に対応する体制整備にむけたFD・SD交流集会の実施</p> <p>内部質保証を実施する全学的な組織・体制について、教職員全体で情報を共有するため、2020年1月29日にFD・SD交流集会を開催した。これにより、あらたな内部質保証システムについての全学的な周知を図ることができた。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	大学教務委員会	職 名	委員長	氏 名	渡辺恭子
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) カリキュラム・マップの改定（Ⅱ－1（1）－⑤、⑧）</p> <p>(2) 新共通教育科目の円滑な運営（Ⅱ－1（1）－②、(3)－①）</p> <p>(3) 高大接続連携授業の検討</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) カリキュラム・マップの改定</p> <p style="margin-left: 20px;">2019年4月の大学教務委員会にて「カリキュラム・マップの改定について」を検討し、改定のスケジュールや作成方法について審議した。これらに基づき、専門教育科目は各学科において、共通教育科目は共通教育委員会において作業を進めた。新たにカリキュラム・マップを作成することになった共通教育科目については、5月と6月の共通教育委員会で、検討を行った。その後、6月の大学教務委員会において、改定・作成状況について意見交換を行い、全学的な統一が必要な箇所や文言などについて情報を共有した。これらを踏まえて、7月に臨時の大学教務委員会を開催し、カリキュラム・マップの最終案を承認した。</p> <p>(2) 新共通教育科目の円滑な運営</p> <p style="margin-left: 20px;">2019年4月より、新共通教育科目が開始された。新設科目である「女性みらい」科目は、全学科において滞りなく授業が行われた。他の科目についても、円滑に運営された。</p> <p>(3) 高大接続連携授業の検討</p> <p style="margin-left: 20px;">現在、高大接続連携授業はアクティブ・ラーニングを取り入れた形で、全9回で運営している。この方法は2016年度から開始されており2019年度で4年目となる。そこで、この期間の高大接続連携授業を振り返り、今後のあり方を検討した。各学科から寄せられた意見をもとに検討した結果、概ね大きな変更を求める意見がなかったことから、現在の授業形態を継続することについて承認した。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	入学センター委員会	職 名	委員長	氏 名	奥村隆平
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) 適正な総入学者数の確保</p> <p>(2) 高大接続改革に応じた入学者選抜の実施の検討</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) 適正な総入学者数の確保</p> <p style="padding-left: 20px;">2019年6月26日の入学センター委員会で、「2020年度入試の学長方針」および2019年度入試検証結果などに基づいて、入試種別ごとの2020年度各学科入学者確保数案を確認した。この確保数案に基づき、過去の入試データを参考にしながら、入試種別ごとに各学科合格者案を検討し、適正な総入学者数の確保を目指した。</p> <p>(2) 高大接続改革に応じた入学者選抜の実施の検討</p> <p style="padding-left: 20px;">2021年度入学者選抜について、高大接続改革の趣旨を踏まえながら、一般選抜における大学入学共通テストの活用、学校推薦型選抜における面接試験への口頭試問の導入と推薦書の活用、入試区分の変更に伴う各入試種別名称の変更、入試日程の適正化などを柱とする基本方針を決定した。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	大学学生生活委員会	職 名	委員長	氏 名	青山喜久子
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) 学生マナーの向上のための啓発活動の推進 (Ⅱ-1 (2) -③)</p> <p>(2) 就職活動支援に必要な担当職員の知識・能力の向上</p> <p>(3) ボランティア活動支援体制の構築 (Ⅱ-1 (2) -⑥)</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) 学生マナーの向上のための啓発活動の推進</p> <p>学生生活支援センターでは、学生マナー啓発のために作成した冊子「KINJO MANNER BOOK」を新入生に配布した。学生会と協力し同冊子から学生食堂のテーブルに置くポップを作成し、日常的に学生マナー向上を呼びかけた。例年複数件寄せられる近隣住民の通学路および名鉄電車内に関する苦情は、警備員の配置の工夫もあり、後期には苦情は寄せられず学生マナーの改善がみられた。</p> <p>キャリア支援センターでは、就職への意識が高まる9月下旬から「素敵な女性への第一歩『金城生のマナー』」の文書を配布した。また、マナーに関する講座は、「第8回 就職ガイダンス「第一印象で差をつける〈マナー講座〉」を10月下旬に、「ビジネスマナー体感ツアー」を11月中旬に実施した。学生アンケートでは「意識は高まったか」との問いに対し、9割近くの学生が「高まった」「やや高まった」との回答を得た。</p> <p>(2) 就職活動支援に必要な担当職員の知識・能力の向上</p> <p>9月に部署内研修を実施した。リクルートキャリアの講師、及び中部学生就職連絡協議会連合会今枝氏を講師に迎え、アセスメントを使ったカウンセリング、さまざまな場面における学生対応についてのグループワーク等の研修を行った。研修にて得た知識を用いて、後期以降の学生指導に活かしている。</p> <p>(3) ボランティア活動支援体制の構築</p> <p>学生ボランティア派遣を案内するリーフレットを守山区区政推進会議（守山区の公共施設、インフラ企業、教育機関等の代表者が参加する会議）で配付し、学生生活支援センターでボランティアの受付を開始した。2018年度よりリーフレット掲載の学生ボランティア団体を増やしたことにより、守山区区政推進会議からのボランティア派遣依頼およびボランティア活動の参加数が増加した。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	図書館委員会	職 名	委員長	氏 名	大橋陽
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) 電子書籍の利用促進 (2) 新たな読書奨励活動 (3) 教員対象の図書館利用講習会の実施</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) 電子書籍の利用促進 電子書籍が利用できることを知らない利用者が多いことを踏まえ、利用促進のための広報活動を行った。具体的には、3年生対象の就活ガイダンスで就活に役立つ電子書籍について案内し、図書館ラウンジには旅行ガイドブックの電子版の案内を掲示した。また、2019年11月5日には、電子書籍講習会「スマホ de 多読体験会」を初開催し、学生指導のために利用方法習得が必要な教職員に参加いただいた。さらに、Infobase eBooks 利用案内「アプリで多読」を作成、配付した。</p> <p>(2) 新たな読書奨励活動 前期には初の試みとして、国際交流センターと連携し、留学生と図書館ボランティアのLilianが交流しながらポップ作りを行った。国際交流センターとの連携企画の第2弾として、2019年12月18日には「Library Café in CIEP」を開催し、作家と作品名をテーマにしたゲームを実施した。 キリスト教センターとの新たな試みとして、2001年以降の礼拝で言及された書籍24冊を、「文学」、「絵本」、「社会」、「信仰」の4テーマに沿って展示、紹介した（2019年10月7日～10月31日）。</p> <p>(3) 教員対象の図書館利用講習会の実施 4、5月に、「金城学院大学図書館を使い倒していただくために」と題し、新任教員向けの図書館講習会を5名に個別に実施した。閲覧、ホームページの諸機能、予算費目と発注など、本学図書館独自の制度やルールなどを必要に応じて説明した。その結果を振り返り、2020年度における継続実施に向けて内容の見直しを行った。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	キリスト教センター委員会	職 名	委員長	氏 名	小室尚子
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) 礼拝の励行 (I-1-③)</p> <p>(2) 建学の精神の徹底 (I-1-①)</p> <p>(3) 大学のキリスト教活動についての史料収集とまとめ</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) 礼拝の励行</p> <p style="margin-left: 20px;">1) とくに教職員に向け、礼拝出席の向上に力を入れることを目標としたが、ほぼ例年通りの出席率で、2020年度にむけて課題が残る結果であった。</p> <p style="margin-left: 20px;">2) クリスマス礼拝など、教会暦にそった記念礼拝を充実させ、またとくに秋の伝道週間には、学生たちによる奨励も加え、多くの出席者を得た。2020年度も更に魅力ある礼拝作りに取り組んでいきたい。</p> <p>(2) 建学の精神の徹底</p> <p style="margin-left: 20px;">2019年度は学院創立130周年を迎え、あらゆるキリスト教活動を通して、建学の精神を思い起こし、キリスト教学校としての金城学院大学の存在の意義を覚えることを目標とした。</p> <p style="margin-left: 20px;">1) 学生に向けては、例年のように新入生のためのオリエンテーションや、伝道週間、金城アイデンティティ科目の授業、その他のキリスト教活動の中で、確認する機会を設けた。</p> <p style="margin-left: 20px;">2) 教職員に向けては、大学教員キリスト教セミナーにおいて、2017年度から続けてきた「福音主義」についての学びを重ねた。出席者は昨年比114.3%で、100名を越える出席者を得ることができた。</p> <p style="margin-left: 20px;">事務職員の修養会では、東京新宿で精力的に伝道に取り組んでおられる牧師を講師として招き、エネルギーな音楽を通して福音を聴くことができた。</p> <p style="margin-left: 20px;">これからも、年間一度しかないそのような機会を十分に活かし、全員出席を目指して内容を充実させていきたい。</p> <p>(3) 大学のキリスト教活動についての史料収集とまとめ</p> <p style="margin-left: 20px;">2019年度は学院創立130周年の年でもあるので、周年を記念して2017年度より進めてきた金城学院大学クワイアと学院メサイアの歴史と活動をまとめる作業に入る予定であったが、史料が分散しており、収集がはかどらず、計画通りに作業を進めることができなかった。2020年度は完成に近づけるよう努力したい。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	国際交流センター委員会	職 名	委員長	氏 名	小室達章
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) 海外協定校の新規開拓 (Ⅱ-1 (1) -③)</p> <p>(2) 受入留学生向け教育プログラムの拡充 (Ⅱ-1 (3) -①)</p> <p>(3) 受入・送出留学生向けの経済的支援の充実 (Ⅱ-1 (1) -③)</p> <p>(4) 危機管理体制の整備 (Ⅱ-1 (2) -⑧)</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) 海外協定校の新規開拓</p> <p>留学・海外教育系のフォーラムに参加し、イギリスの大学と協定締結に向けた折衝を開始した。本学の受入留学プログラム・授業について英語で説明するパンフレットを作成・配布し、情報発信・PRを実施した。また、2月には、オーストラリアの3協定校に訪問し、受け入れ促進のための交換留学説明会を開催するとともに、語学研修・送り出しの現況確認と情報交換を行う。</p> <p>(2) 受入留学生向け教育プログラムの拡充</p> <p>産学連携による実習系授業「Kinjo 0-MO-TE-NA-SHI Study プログラム (日本のホスピタリティーを学ぶプログラム)」を継続実施する。また、地元企業へのワンデーインターンシップを実施し、今後の実習系授業へとつなげていく予定である。上記の2月のオーストラリアへの大学訪問でも、日本の大学に求める教育プログラムのあり方についてヒアリングを実施する。</p> <p>(3) 受入・送出留学生向けの経済的支援の充実</p> <p>受入・送出留学生向けの奨学金確保のため、JASSO (独立行政法人日本学生支援機構) の海外留学支援制度に申請し、プログラム名「海外留学を通じた女性キャリア形成プログラム」が送出留学生向けの奨学金 (年間 1223 万円) として新規に採択された。</p> <p>(4) 危機管理体制の整備</p> <p>留学・語学研修予定学生を対象に専門家による危機管理オリエンテーションを継続実施するとともに、渡航医療専門医のセミナーを新たに実施した。2019年度から、留学・語学研修に赴く学生に、感染症の罹患・予防接種歴についての記録を提出してもらうこととした。また、海外旅行保険の付帯サービスを見直し、トータルサポートサービス (24 時間 365 日対応の危機管理サポートデスク体制) を追加し、教員および留学・語学研修に赴く学生全員に対して、詳細な説明会を実施した。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	マルチメディア センター委員会	職 名	委員長	氏 名	岩崎公弥子
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) TA・SAによる学生サポートの充実</p> <p>(2) マルチメディアセンター講習会の実施</p> <p>(3) manabaの利用サポートの実施</p> <p>(4) コンピュータ教室のプリンタ利用に関するマナー向上のための対策の実施 (Ⅱ-1(2)-③)</p> <p>(5) 私立大学情報教育協会（以下、私情協と表す）の研究大会等の情報の共有の継続 (Ⅱ-1(3)-②)</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) TA・SAによる学生サポートの充実</p> <p style="margin-left: 20px;">9月17日にTA・SAを対象にした研修会「組織を意識する」を実施した。外部講師を招き、学びの多い研修となった。2018年度から、TA・SAに活動目標（問題解決力、自己管理等）を設定させ、半年ごとに振り返りを行わせている。2019年度は活動目標の見直しを行うことで、TA・SAは、より具体的な活動をすることができた。これによりサポートスキルが全体的に向上した。</p> <p>(2) マルチメディアセンター講習会の実施</p> <p style="margin-left: 20px;">2018年度に引き続き、新生を対象にしたマルチメディアセンター講習会を実施した。欠席した学生のために、ビデオ録画を行い、後日、eラーニングで講習を受講できるようにした。</p> <p style="margin-left: 20px;">また、2019年度も高大接続連携授業の高校生を対象に情報モラルとeラーニングの利活用についての講習会を実施した。これにより、安全で円滑な施設の利活用を促すことができた。</p> <p>(3) manabaの利用サポートの実施</p> <p style="margin-left: 20px;">2019年度も履修支援センターと連絡をとりながら、manabaでのレポート回収を中心にした講習会を適宜開催した。さらに、manabaの応用的な利活用をサポートするテーマで研究会を2月27日に開催する予定である。</p> <p>(4) コンピュータ教室のプリンタ利用に関するマナー向上のための対策の実施</p> <p style="margin-left: 20px;">学生毎のプリント枚数を管理するシステムを用いて、大量印刷によるプリンタ占有などのマナーに反する利用を防ぐとともに、マナー向上のための呼びかけを行った。これにより、マナーを守る学生が増えた。また、学部ごとの利用状況を分析し、卒業年次にも制限をかけるなど、今後の対策について委員会で検討を行った。</p> <p>(5) 私情協の研究大会等の情報の共有の継続</p> <p style="margin-left: 20px;">2018年度に引き続き、私情協が提供している国の施策や全国の他大学の教育へのICT活用に関する最新の情報を学内で共有できるよう、オンデマンド配信システムの契約を行った。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	言語センター委員会	職 名	委員長	氏 名	田村章
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) 副専攻（実践ビジネス英語）プログラムの内容の再評価と安定的運用のための体制強化 (Ⅱ-1 (1) -③、④)</p> <p>(2) 実践的英語力増強のための授業内イベントの整備と TOEIC L&R 受験の促進 (Ⅱ-1 (1) -④、⑦)</p> <p>(3) 外国語教育科目における実態の追跡調査 (Ⅱ-1 (1) -③、⑤)</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) 副専攻（実践ビジネス英語）プログラムの内容の再評価と安定的運用のための体制強化</p> <p style="margin-left: 20px;">1) 本プログラム第一期生にとって、「海外ビジネス研修」は、英語力増強と海外経験の双方の面で、きわめて有意義なものになった。その準備期間となる1・2年次の英語学習プログラムも適切に運営されている。2019年度は「海外ビジネス研修」の参加要件を満たすことができなくなる学生を減らすために単語テストの実施やeラーニングの強化等、指導内容のいっそうの充実をはかった。</p> <p style="margin-left: 20px;">2) 2019年度より副専攻を担当する非常勤助教を2名体制とし、勤務時間が重複しないことを原則に、円滑な学生対応ができるようにした。今後も業務体制の最適化に留意したい。</p> <p style="margin-left: 20px;">3) 「実践ビジネス英語A・B・C」の学習効果を検証するために、TOEIC L&R スコアの変遷を調査した結果、2017年度入学受講生では入学後直近のTOEICの平均が565点であったのに対して、現在までの各自の最高得点の平均は726点であり161点の上昇が見られた。同様に2018年度入学生は518点から662点と144点の上昇が見られた。以上より高い学習効果があったと言える。</p> <p>(2) 実践的英語力増強のための授業内イベントの整備と TOEIC L&R 受験の促進</p> <p style="margin-left: 20px;">1) グローバル社会で求められる英語をテーマに日本IBMで理事、事業部長等を歴任された根塚眞太郎氏による講演会を5月20日に開催した。講演会最後には根塚氏と参加学生との間で活発な質疑応答が交わされ、有意義なイベントになった。今後もこのような催しを開催することによって、TOEIC L&R 受験の促進をはかっていく。</p> <p style="margin-left: 20px;">2) 2019年度後期「英語コミュニケーションC(2)」全クラスの第12回授業をSpecial Class Event（英語プレゼン大会）として実施した。教員と学生がともに活発に取り組み、英語力の増強に役立つイベントとなった。</p> <p>(3) 外国語教育科目における実態の追跡調査</p> <p style="margin-left: 20px;">外国語教育科目での言語ごとの科目運営について、2018年度後期および2019年度前期における各科目および担当者別各クラスの履修者数と成績評価の割合をデータ化し、実態を把握した。この一覧をもとに検証した結果、一部の同一科目内で担当者間の情報交換の必要性が確認された。そのため、該当する担当者への説明を行なった。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	文学部 自己評価委員会	職 名	委員長	氏 名	藤森清
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) リーダーシップ教育の展開 (Ⅱ-1 (1) -⑦)</p> <p>(2) FD活動の推進 (Ⅱ-1 (3) -②)</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) リーダーシップ教育の展開</p> <p style="padding-left: 20px;">2月10日(月)に「国際情報学部のリーダーシップ教育」と題して、国際情報学部長谷川元洋教授の報告会を開催した。2018年度の講演会から得た共通認識に基づき、リーダーシップ教育を文学部の教育に取り込む方策を具体的に検討した。</p> <p>(2) FD活動の推進</p> <p style="padding-left: 20px;">FD活動のうち、教育FD活動は前項の報告会で兼ねている。研究FD研修会としては、10月9日(水)に船田淳一教授による研究紹介「陰陽道と平安都市社会」を開催した。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	生活環境学部 自己評価委員会	職 名	委員長	氏 名	丸山智美
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) 学部の専門性を生かした地域・社会貢献活動の推進 (IV-1-②、④)</p> <p>(2) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づく教育の推進 (II-1 (1) -⑧)</p> <p>(3) FD活動の推進 (II-1 (3) -②)</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) 学部の専門性を生かした地域・社会貢献活動の推進</p> <p style="margin-left: 20px;">各学科の専門性を生かして守山区、名古屋市、尾張旭市、瀬戸市等の自治体や企業との活動を多数おこなった。例えば生活マネジメント学科では自治体と連携した消費者教育活動、食環境栄養学科では自治体や企業と連携した食育活動や調査研究、環境デザイン学科では自治体や企業と共同したデザインプロジェクト等をおこない、各学科とも学生を積極的にかかわらせることにより、学部の専門性を生かした地域・社会貢献活動を推進した。</p> <p>(2) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づく教育の推進</p> <p style="margin-left: 20px;">「教育に関する学科別協議会」を各学科が前期授業期間後に開催し、各学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づく教育について意見交換をおこなった。ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づいたカリキュラム・マップや授業評価ルーブリックの再確認等により評価・点検方法を協議した。</p> <p>(3) FD活動の推進</p> <p style="margin-left: 20px;">10月9日(水)に生活環境学部FD研修会で「ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに基づく教育の推進」をテーマに意見交換をおこない、さらに2月27日(木)に「学部の専門性を生かした地域・社会貢献活動の推進」をテーマとした生活環境学部FD報告会を実施した。各学科の事例をもとに意見交換をおこなうことでFD活動を推進した。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	国際情報学部 自己評価委員会	職 名	委員長	氏 名	牛田博英
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) 学修成果把握に関する試験的取り組み（Ⅱ－1（1）－⑧）</p> <p>(2) 2021年度入学生より適用の新カリキュラムの検討着手（Ⅱ－1（1）－⑧）</p> <p>(3) KIT (Kinjo International Training) の運営の改善（Ⅱ－1（1）－⑤）</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) 学修成果把握に関する試験的取り組み</p> <p style="margin-left: 20px;">2018年度に続き、同じ対象者に対して2019年6月1日に外部試験を実施した。2019年7月10日にFD勉強会を開催し、2回の外部試験結果から学修成果を把握した。また、2019年7月下旬に3年生と4年生を対象に現カリキュラムに関するアンケート調査を実施し、現カリキュラムの問題点を抽出した。</p> <p>(2) 2021年度入学生より適用の新カリキュラムの検討着手</p> <p style="margin-left: 20px;">前記(1)の外部試験とアンケート調査の結果を検討材料として、教育に関する学科別協議会、コース会議、教授会における議論を経て、新カリキュラム原案を作成した。</p> <p>(3) KIT (Kinjo International Training) の運営の改善</p> <p style="margin-left: 20px;">2019年2月から3月にかけて実施したKIT海外研修を点検し、危機管理体制の改善をはかった。具体的には感染症対策として学生の予防接種歴と罹患歴を確認し、未接種の学生には抗体検査や予防接種を推奨した。さらに、2020年における新型コロナウイルスの流行に伴い、外務省海外安全情報配信サービスへの登録を学生に徹底することにした。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	人間科学部 自己評価委員会	職 名	委員長	氏 名	朝倉美江
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) 学部・各学科における専門教育の点検（Ⅱ－1（1）－⑤）</p> <p>(2) 学部の専門性を生かした社会貢献の点検と充実（Ⅳ－1－③）</p> <p>(3) 学部FD活動の推進（Ⅱ－1（3）－②）</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) 学部・各学科における専門教育の点検</p> <p style="margin-left: 20px;">現代子ども教育学科においては、学科名称変更と文科省の教職課程認定審査を契機として、カリキュラムについて根本的な見直しを行っているところである。社会的なニーズに合ったより魅力的なカリキュラムとするために、例えば、絵本士資格の取得、子ども英語の強化など、様々な提案が行われ、現在、可能性を模索しているところである。また、小学校課程のあり方を改善するための議論も進めている。多元心理学科の公認心理師資格、コミュニティ福祉学科のソーシャルウーマン・プログラムの新カリキュラムが2年目となり、さらなる充実を図っている。さらに社会福祉士、精神保健福祉士の法改正に対応する準備を進めている。</p> <p>(2) 学部の専門性を生かした社会貢献の点検と充実</p> <p style="margin-left: 20px;">地域における社会貢献を担っているKIDSセンターにおいて、人間科学部が関わっているプログラムの点検を毎年実施している。尾張旭市との連携協力プログラムも順調に推進している。またソーシャルウーマン・プロジェクトでは大学生協東海事業連合やブラザー工業株式会社のCSR活動との協働などによる地域貢献活動に参加している。</p> <p style="margin-left: 20px;">また2019年11月の長野地震の被災地への募金活動、オレンジリボン運動（児童虐待防止運動）にも参加し、学内および学外（大曾根駅）での募金活動を行った。</p> <p>(3) 学部FD活動の推進</p> <p style="margin-left: 20px;">学部教員の研究活動の活性化と専門教育の充実を図ることを目的とした教員の研究発表会を毎年度開催しているが、2019年度はコミュニティ福祉学科で今後開講予定のファンドレイジング演習という科目および資格の取得についてファンドレイジング協会の関係者を招いて説明会を開催した。</p> <p style="margin-left: 20px;">視覚障害のある学生など支援が必要な学生に関して、各学科内で話し合い共通理解を図った。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	薬学部 自己評価委員会	職 名	委員長	氏 名	永津明人
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) 薬剤師国家試験及び薬学共用試験への対応 (Ⅱ-1 (1) -⑨)</p> <p>(2) 薬学教育評価機構による薬学教育評価への対応 (Ⅱ-1 (3) -③)</p> <p>(3) 自律学習できる医療人を目指した教育の実践 (Ⅱ-1 (1) -⑦)</p> <p>(4) 実務実習の円滑な実施の維持 (Ⅱ-1 (1) -④)</p> <p>(5) 地域等への社会的貢献 (Ⅳ-1 -⑤)</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) 薬剤師国家試験及び薬学共用試験への対応 第102～104回国家試験の結果を踏まえ、他大学の国試対策情報等を参考に、第105回国家試験に向け、自律学習を目指した指導を行った。4年次生の薬学共用試験についても、自律学習ができるよう指導した。模試などでの成績会社への面談指導なども交えて指導を行った結果、2019年度の薬学共用試験では、CBT本試験では144名中138名合格(合格率95.8%)で本試験不合格者は過去最少だった。OSCEは143名の合格だった。それぞれの不合格者はこの後、年度内に再試験を受験する。</p> <p>(2) 薬学教育評価機構による薬学教育評価への対応 2018年度の薬学教育評価機構による薬学教育評価を受審の結果、適合の認定はされたものの、但し書き1項目、助言19項目、改善すべき点19項目の指摘を受けた。全項目の対応完了の報告を2020年度中に薬学教育評価機構宛に提出できるよう、各項目の内容に応じて学部各種委員会で対応策の立案を分担し、実践が可能な対応策から順次対応を行なった。</p> <p>(3) 自律学習できる医療人を目指した教育の実践 自分で考え、判断する力が身につくよう、低学年から指導を徹底し、薬学基礎知識の定着を図った。2019年度においても、薬学セミナー、薬学PBL、薬学TBL、薬学CBL、薬学演習などの問題解決型の授業や、春期及び夏期の休暇時における課題の実施によって自律学習能力の強化を図った。さらに、各講義科目においても各教員が自律学習の習慣付けの指導を強化した。</p> <p>(4) 実務実習の円滑な実施の維持 愛知県薬剤師会、病院薬剤師会等の関係諸機関および愛知県内4大学薬学部との連携、実務系教員を軸とした薬学部全教員が協力しての巡回指導などで、実務実習を滞りなく進められた。2019年度大学薬学部・県薬剤師会連携懇談会(10/11)および今後の東海地区実務実習のあり方についての検討会(12/23)に学部長および実務実習担当教員が出席して、実務実習の円滑な実施に向けて愛知県内4大学の薬学部と愛知県薬剤師会関係職員との懇談を行った。また、9/15～16、1/12～13の認定実務実習指導薬剤師ワークショップ in 東海には教員をタスクフォース及び事務局担当者として派遣した。実習担当者の養成を通じて円滑な実務実習の実施に協力した。</p> <p>(5) 地域等への社会的貢献 学術面では、日本薬学会東海支部特別講演会(4回開催)、セルフメディケーション推進協議会学術フォーラムなどの学術企画を本学で開催した。薬剤師活動では、2019年4月に金城学院大学薬剤師会を設立し、愛知県薬剤師会の部会、分科会、会議への参加を通じて地域薬剤師活動により積極的に参加する体制とした。また、例年通り、愛知県薬剤師会主催の学習会や薬剤師研修行事にも参加したほか、漢方薬生薬認定薬剤師の認定試問会場の提供と運営、同認定の薬用植物園研修会の実施など、地域の薬剤師活動に貢献した。そのほか、薬物乱用防止や健康、環境保全等の啓発イベントや講義を通じた地域活動への協力、地方自治体の各種委員会への教員の派遣を通じて、地域に貢献した。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	文学研究科 自己評価委員会	職 名	委員長	氏 名	森田順也
<p>【2019 年度活動目標】</p> <p>(1) 国際理解教育の更なる推進 (Ⅱ-1 (1) -③)</p> <p>(2) 学生の学外学会発表の促進 (Ⅱ-1 (1) -④)</p> <p>(3) 社会人対応の教育体制の整備 (Ⅳ-1 -⑤)</p> <p>(4) 定員確保にむけた広報活動の拡充</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) 国際理解教育の更なる推進</p> <p>2019年11月28日に、言語学（日本語と中国語の対照研究）を専門とする麗澤大学教授の井上優氏を招き、講演「異文化といかにつきあうか」を開催した。これは大学院文学研究科講演会第8回にあたり、学外からも含め185名の参加者を得た。講演では、対照言語学の基本的な考え方、および関連する異文化理解について具体的で興味深い分析が提示された。講演後、質疑応答が活発に行われ、文学研究科に共通の研究分野である「ことばと文化」「言語と社会」についての理解が一層深まった。</p> <p>(2) 学生の学外学会発表の促進</p> <p>学生の学内学会発表は積極的に行われているものの、学外学会発表につながらないのが実情であったが、2019年度は学外学会発表が活発に行われ、8名の発表者を得た。金城学院大学大学院学生学会発表旅費交通費助成の利用者は、海外での学会発表者2名であった。海外での学会発表が行われたことは評価に値する。学外学会発表の目標設定、教員による指導強化、及び旅費交通費助成利用の奨励を引き続き行う。</p> <p>(3) 社会人対応の教育体制の整備</p> <p>近年の入学者数の厳しい状況に鑑みて、職業をもった社会人の受け入れのために望ましい教育体制を、文学研究科FD委員会にて検討した。サテライト教室を含む授業実施場所の利便をはかること、柔軟な時間割、およびカリキュラム改訂の可能性などが議論された。社会人の受け入れについて、さらなる検討が必要であることが確認された。</p> <p>(4) 定員確保にむけた広報活動の拡充</p> <p>定員確保のために、同窓生の大学院進学を奨励するための広報活動を重点的に実施した。英語英米文化学科同窓会主催の講演会（大石静氏）の出席者全員に、大学院進学を勧めるちらしを配布するとともに、同学科の同窓会 Facebook にて社会人入試の広報を行った。また2020年度の「みどり野会」会報に、文学研究科の魅力を伝える記事を掲載していただく手続きを取っている。</p>					

2019年度 活 動 報 告

所 属	人間生活学研究科 自己評価委員会	職 名	委員長	氏 名	川瀬正裕
<p>【2019年度活動目標】</p> <p>(1) 人間生活学研究科の将来構想に関する検討 (2018年から継続)</p> <p>(2) 「女性みらい研究センター」および「KIDSセンター」との協働・連携</p> <p>【上記活動における報告】</p> <p>(1) 人間生活学研究科の将来構想に関する検討 (2018年から継続)</p> <p>2019年度入試に引き続き、2020年度入試については、人間発達学専攻臨床心理学分野以外の発達学分野と消費者科学専攻も入学生を確保することができた。このことは大学院自体の広報も効果を見せたと考えられるが、学部教育の中での努力も効果的であったと考えられる。継続的に行っていきたいと考えている。</p> <p>臨床心理学分野に関しても、昨年度に比較して受験生が多く、春期入試を前にした現段階で、例年の人数を確保できている。人数に見合った実習先の確保などの課題は大きいですが、関係する教員での対応が望まれる。</p> <p>また、昨年度から継続して後期課程に進学する学生がおり、後期課程の活性化も期待できる状況である。</p> <p>(2) 「女性みらい研究センター」および「KIDSセンター」との協働・連携</p> <p>実習を含めた「KIDSセンター」と連携は安定してきていると言えよう。現在は、臨床心理学分野の実習を受け入れているが、そのほかの発達分野についても同様に連携がなされてきている。また、「女性みらい研究センター」の活動も開始され、授業科目も設置されている。本学大学院の修了生が講師となって行われる計画もなされており、有機的に連携が進められている。今後はこのように修了生が講師などとして具体的な活動にかかわれるよう、今後もチャンネルの増加を継続的に進めていきたい。この活動は、後期課程の学生の将来へつなげる経験を提供する機会にもなると期待できよう。</p>					

金城学院中期計画（2015年度～2020年度）大学関連項目一覧表

I キリスト教主義による全人教育の強化

1. 大学（I-1-①～⑥）

- ① 学生と教職員への建学の精神の徹底
- ② キリスト教教育の再構築
- ③ 学内礼拝の励行と教会出席の推奨
- ④ エラ・ヒューストン記念礼拝堂の活用
- ⑤ 地域教会との連携強化
- ⑥ 地域住民へのキリスト教講座の充実

II 教育・研究の推進と学習支援

1. 大学

(1) 教育・研究上の改革（II-1(1)-①～⑪）

- ① 初年次教育の充実
- ② 社会から求められる教養教育の実現
- ③ 国際理解教育の更なる推進
- ④ 高度職業人の育成
- ⑤ 教育課程の体系化
- ⑥ 実質的な学修時間の確保
- ⑦ 学生の主体的・能動的学びの実現
- ⑧ ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づく教育の実現
- ⑨ 国家試験合格率の向上
- ⑩ 研究成果の可視化と教育への還元
- ⑪ 科学研究費などの申請件数、採択件数の拡大

(2) 学生支援の充実（II-1(2)-①～⑧）

- ① アドバイザー制の充実
- ② キャリア開発・就職支援の推進
- ③ 学生マナーの向上
- ④ クラブ・サークル活動の活性化
- ⑤ 学生相談体制の充実
- ⑥ 学生ボランティア活動の促進
- ⑦ 「K-CARTE」・「K-PORT」による学生支援の充実
- ⑧ 防災体制の整備

(3) 教学マネジメント体制の強化（II-1(3)-①～③）

- ① 共通教育運営体制の充実
- ② FD活動及びSD活動の推進
- ③ 自己点検・自己評価制度の更なる拡充

IV 地域社会との共生

1. 大学（IV-1-①～⑤）

- ① 環境共生モデル地区の維持と活用
- ② 「大学コンソーシアムせと」への積極的参加
- ③ KIDS (Kinjo Infant Development Support) センターの設置と運営
- ④ 企業との積極的な連携
- ⑤ 生涯教育、社会人教育、リカレント教育の充実

○金城学院中期計画（2015年度～2020年度）

URL : <https://www.kinjo-gakuin.jp/report/business/pdf/01/plan2015-2020.pdf>